

第三者評価結果入力シート（乳児院）

種別	乳児院
----	-----

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

SK2021096

S2021052

神機構-1079

③ 施設名等

名称：	しらかばベビーホーム
施設長氏名：	仲嶋 久義
定員：	19名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	2011/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人誠心会
職員数 常勤職員：	29名
職員数 非常勤職員：	7名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	22名
有資格職員の名称（イ）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（ウ）	調理師
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（エ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	看護師
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（カ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	4室
施設設備の概要（イ）設備等：	寝室、沐浴室、心理療法室、診察室、病室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

<運営理念>

・「みんないっしょの養護・養育」

要保護乳児及び幼児の最善の利益確保に向けて、法人が一体となって全ての専門職種の職員の力を結集して、効果的・効率的な施設運営を心がけます。

<運営方針>

・要保護乳児及び幼児の人権に配慮した援助と個別の自立支援計画により、それぞれの目標に向けた支援を懇切丁寧に行います。

・そのために必要な全ての職員の専門性及び資質の向上に努めます。

⑤ 施設の特徴的な取組

〇しらかばベビーホームでは、次の生活環境へ「つなぐ」ことを意識し、子どもの生活がどこでも安定するよう、細やかな引き継ぎを行っている。親子関係の再構築に力を入れており、家庭に帰り落ち着いた生活をしている子どもも多い。現在も家庭復帰に向け、面会や外出、園内宿泊など、段階を踏んで、家族の養育スキルの向上を支援している。また、里親の下で生活している子どもや、児童養護施設に移行した子どもに対し、その後のフォローに力を入れている。家庭復帰ができず、重い障害状態にあることから、児童養護施設などでも受け入れ困難のため、一時保護として引き続き園から小学校に通っている子どももいる。

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/6/1	
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/2/20	
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和元年度（和暦）	

⑦総評

○しらかばベビーホームは、定員19名の小規模な乳児院で、子どもとの愛着関係の構築を目指し、担当養育制の下、生後1ヶ月の乳児から6歳の一時保護までの子どもが生活している。

○愛着関係づくりが重要と、全職員は意識している。担当制をとり愛着関係ができるよう工夫している。担当の保育士が来ると、保育士の名前を呼び飛びついてきて、抱っこをしてもらうなど子どもが寄ってくる。保育士は赤ちゃんをおんぶしたり、抱っこしたり、スキンシップを取りながら対応している。保育士に何か訴えてくると優しく応答し、良かったねと手をたたきながらほめたりと、子どもにしっかりと向き合った養育をしている。

○全国から報告される不適切な関わりで起きる、子どもの事故の報告やニュースの内容を印刷し、職員全員が読めるよう「引継ぎ板」に挟んで周知している。ヒヤリハット報告の中で、保育士がドアを慌てて閉めた時に子どもの手を挟んだなど、事故が何故起こったか、改善策はどうだったかを会議の中で検討して、全員が周知をして養育にあたっている。

○生後1ヶ月のミルクだけの子ども、離乳食とミルクの子どもなどさまざまであるが、しっかりと抱っこして授乳をしている。ミルクを何時に、何CC飲んだか、排尿、排便はいつあったかなどその子どもの1日の生活が一目でわかるよう「生活記録」にすべて記録し、全職員が把握できるようにしている。ミルクの後はしばらく抱っこをして対応している。

○生後5ヶ月頃になると、栄養士と離乳食の相談をして、初期の離乳食を一口から試してみて、大丈夫であれば種類、量を増やし、段階を踏んで行っている。離乳食はA（初期）、B（中期）、C（後期）、D（完了食）の段階で提供している。1歳くらいから、自分で食べる練習として、スティック状の野菜などを用意して、ご飯をスプーンにのせてあげ、自分で持って食べること、器に少し盛り、自分ですくって食べることなど段階を踏んでいる。子どもの様子に合わせ、自分で食べられるよう養育している。

○完食すると食器の底のペンギンが見えたり、かわいいキャラクター付きのスプーンを使用したり、子どもたちが喜ぶような食器を使用している。七夕にはお星さまの手作りゼリー、クリスマスにはかわいいケーキなど、行事食を手作りして喜んでもらっている。また、誕生会にはその子どもが好きな物を作っている。ワンプレートにきれいに盛った食事を、子どもたちはとても楽しみにしている。食事は全員一斉にはなく、一人ひとりにゆったりと関わられるよう、時間をずらすなどの工夫を行っている。

○玩具係の職員を中心に、月齢に適した玩具などを随時補充している。壊れた玩具は、危険防止のため処分している。子どもが気に入っているおもちゃは、修理して危険のないように使用している。ぬいぐるみにこだわったり、カバンにこだわったりする子どもがおり、安全に使用できるように配慮している。子どもたちは外遊び用の滑り台などで保育士と一緒に遊び、天気の良い日は散歩車に乗って近くの公園に行き、ドングリを拾ったり落ち葉を拾ったりして自然を楽しんでいる。

○健康管理マニュアルを整備している。日々の子どもの状態や顔色、鼻水、咳、喘鳴などの視診を行い、検温は6時と13時にを行い、生活記録に記載している。看護師が養育の現場に入り、体調変化時の受診などに適切に対応している。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

コロナ禍の影響もあり、前回から4年目の受審となりました。感染対策が一部変わっていたり、行事等が以前並みに戻っていない面はありますが、施設として改めて業務全体を振り返る機会を持つことができましたことを感謝いたします。今回の受審結果を職員全体で共有して、今後さらに意識して取り組んでいきたいと存じます。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（乳児院）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されるとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人の理念や基本方針は、ホームページやパンフレットに掲載している。2年前より「社会福祉法人誠心会みんないっしょ」のファイルを作成し、全職員に配布している。ファイルには、法人の理念や基本方針、乳児院としての養育指針などを入れている。月1回、常勤職員が参加する職員会議では、ファイルをもとに、法人の理念や基本方針の読み合わせを行っている。保護者へは、入所時にパンフレットで理念などを説明し、面会で使用する部屋に事業計画書を置いている。また、毎月の「しらかばベビーだより」で、直近の情報を伝えている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	
【判断した理由・特記事項等】		
社会的養育推進計画の見直しの時期にあたり、国の方針や市の動向を確認している。施設長が、市の計画策定の専門部会の委員を担っていることから、市と連携を図りながら、将来構想を詰めていく必要があると捉えている。職員には、月1回開催する職員会議やクラス会議の場で情報を伝えているが、市の方針など、これからの部分もあり、どこまで伝えていくかは、今後の課題としている。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
月1回、法人全体の施設長会議を開催し、乳児院の状況を報告している。前年度は、職員不足や入所児童数の減少で厳しい1年であったが、今年度も職員の確保、定着は継続的な課題として残っている。心理士など必要な人材が確保できないこと、産休や育休への対応が大変なことなど、課題は山積している。職員会議の場で、職員にも、施設の特性上、状況によって変化が大きいことを説明している。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		

国のビジョンや市の計画に基づき、中・長期の計画として、社会的養育推進計画を策定している。今回は全体の見直しの時期となるため、予算面など、市の計画や方針とのすり合わせが必要になってくる。子どもたちの家庭復帰を念頭に置いているが、医療的ケアが必要な子どもも増えており、乳児院でも就学前までの支援が必要なケースも出てきている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【判断した理由・特記事項等】

単年度の事業計画は、施設の中・長期計画に基づいて作成している。今年度は家庭支援を念頭に置きながら、コロナ禍で実施できなかった子どもたちの外出支援を組み入れている。外食の機会を増やし、遠足や動物園の見学を行っている。また、職員がボランティアで、子どもたちと一緒に外に出かけている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

各部門の職員から、支援の見直しや新しい年度の計画案を出してもらい、2月に施設長が事業計画を策定している。策定した事業計画は、3月の理事会や評議員会に諮り決定している。職員には事業計画書を全員に配布し、年度当初の職員会議で説明している。新採用の職員に対しては、年2回、法人職員研修を開催して、法人の理念や基本方針とともに、事業計画の内容を説明している。

②	7 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

子どもの入所時に、事業計画書をまとめた資料で、保護者に説明するようにしている。また、面会で使用する部屋に事業計画書を置き、自由に閲覧できるようにしている。コロナ禍で面会の回数を制限していたが、自分の子どもを引き取ることができるのか心配、もっと頻繁に面会したいとの保護者の声があり、現在は週2回くらいまでの面会は可能としている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者
評価結果

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【判断した理由・特記事項等】

全国の乳児院協議会で、職員の倫理綱領から乳児院養育指針をまとめており、それに基づいて取り組みを行っている。倫理綱領や養育指針は、何かあった時や悩んだ時に、振り返りの資料として活用している。気付いた点は、クラス会議や職員会議の場で話題にして、全体の課題としている。8～9月、職員は、自身の振り返り「チェックシート」に取り組み、意向申告書とともに提出している。また、法人全体で人権研修を年2回開催し、質の向上に向けた取り組みを組織的に行っている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

個別の事案があれば、当事者や関係者に確認して、事後の対応を検討している。内容によっては、全体に周知して注意喚起を行っている。通常の怪我は看護師が対応して受診につなげているが、事故が発生した場合は、副主任、主任、施設長に報告し、対応策を検討している。事故報告書やヒヤリハット報告書は月毎にまとめ、全職員に回覧している。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【判断した理由・特記事項等】

「役割分担」は作成しているが、細かな規程までではない。そのため、施設長の役割と責任については、職員全員の理解までには至っていない。知り得た情報は、職員会議の場や、ラインワークス(ビジネスチャット)の施設長からの掲示板を活用して伝えている。施設長不在時の権限は主任に委譲し、施設長と主任のどちらかは勤務に就くようにしている。有事の際は、いつでも連絡してほしいことを職員に伝えている。「しらかばベビーだより」を毎月発行し、行事の全体がわかるように写真入りで作成する他、養育担当のコメントを入れて、保護者に送付している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○

	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

県の乳児院の施設長会議や県全体の施設長会議に参加して、遵守すべき法令などの理解に努めている。また、関東ブロックや全国の研修会にも施設長が参加して、直近の情報を入手するようにしている。職員には職員会議などを通し、資料を回覧し、フィードバックするよう心掛けている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

養育・支援の質については、現場から話題として出てくることが多く、職員の声はいつでも聞くスタンスがある。クラス会議には、主任と副主任が参加して、職員の意見を反映する具体的な取り組みを行っている。養育・支援については、個々の職員によって捉え方にずれがあることも多く、職員間の意見調整が必要な場合も多い。子どもたちへの支援は、きちんとこれだと決められないこともあり、チームで関わることの難しさを感じている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

【判断した理由・特記事項等】

入所児童の状況で経営が左右される現状があり、施設の運営と職員の負担のバランスに難しさを感じている。感染症が発生した場合も、受け入れを止めると運営面が厳しくなり、無理に受け入れると職員の負担が大きくなる。経営上の課題は、所管の行政にも理解してもらい、児童相談所を含めて連絡調整しているが、今後の感染症対策と入所受け入れがマッチしないと、運営が難しくなると捉えている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○

	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

職員の採用は、法人内の各事業所が個別に対応している。乳児院には夜勤勤務もあり、法人での一括採用ができない状況がある。大学や専門学校への働きかけ、ハローワークや福祉のしごと、求人サイトなどを活用して採用を行っているが、欠員が出たりすると悪循環になる面がある。また、感染症対策として、余分な採用もできず、非常勤の職員でカバーせざるを得ない。職員には長く勤めてもらい、専門性を高めてもらいたいと考えている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

人事考課は法人として行っていない。法人内の各事業所は、それぞれ法認可が異なり、勤務形態(日勤、宿直、夜勤)も異なっていることから、法人内の職員の異動は限定的なものになっている。経営状況によって、職員への還元は一定ではないが、できる範囲で配分できるようにしている。賞与の率は、ある程度、各事業所の判断、裁量が認められている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

職員の勤務表は主任が作成し、主任と事務職員で勤務状況を把握している。養育担当の職員には、特に公休や年休、リフレッシュ休暇をきちんと取ってほしいと思っている。3日間のリフレッシュ休暇は、年度初めに希望日を出してもらっている。入所児童の人数が定員以下でも、できるだけ工夫して対応する予定である。職員の働きやすい職場作りを目指し、日頃より、職員の声をできるだけ聞くようにしている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○

	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

全国乳児福祉協議会の倫理綱領に、求められる職員像が示されており、それを基にしている。職員には、子どもが寄り添って、子どもが安心感を得られるような職員になってほしいことを伝えている。職員は年度初めに個々の目標を設定し、8～9月に意向申告書を提出し、年2回、施設長との個人面談にて、これからの取り組みとその振り返りを行っている。職員との面談は、感染症の期間も長く、計画通りに実施できなかったことから、次年度は年1回を予定している。ただし希望があれば、いつでも面談できることを伝えている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

外部研修は、職責や経験年数に応じて、施設長と主任が調整して受講者を決めている。施設内研修は、各フロアの職員で構成する院内研修委員が計画し、職員全員が受講している。救急法やAEDの使用方法、心臓マッサージなどの研修会を開催している。また、オンラインで、子どもの食べ方や噛み方を学ぶ他、主治医によるてんかん発作の研修などを行っている。県内乳児院や県児童福祉協議会の研修も、テーマを見て、可能な限り参加するようにしている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【判断した理由・特記事項等】

外部研修の参加状況は施設長が把握し、個別に研修歴を積み上げることで、職員が専門性を高められるようにしている。コロナ禍ではオンラインの研修が多かったが、今年度は集合研修がもとに戻りつつある。職員が年1回は外部研修に参加できるよう調整している。外部研修を受講した職員は、復命書を提出して回覧し、ファイルに綴じていつでも内容を確認できるようにしている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○

<input type="checkbox"/>	専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
<input type="checkbox"/>	指導者に対する研修を実施している。	
<input type="checkbox"/>	実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

主任を受け入れ担当として、専門職が主担当となり、実習生に対応している。実習生には、あらかじめ個人情報保護の誓約書を提出してもらっている。保育士の実習を中心に、前年度は16名、今年度は18名の実習生を受け入れている。実習生の受け入れは職員の負担もあるが、職員は積極的に関わっており、今後も依頼があれば受け入れていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人のホームページにて、事業所の情報を掲載し、運営の透明性を確保する情報を公開している。保護者には月1回、「しらかばベビーだより」を送付して、子どもたちの状況を伝えている。また、後援会のホームページに事業所の状況や支援内容を公開する他、後援会と合同で、年2回、広報誌「あしたば」を発行している。後援会の活動は、児童養護施設の子どものための進路に向けての後援が多い。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	

【判断した理由・特記事項等】

法人及び事業所の規程などは、全職員が書面またはパソコンで確認できるようにしている。月1回の法人全体の施設長会議や、理事会の内容は、必要に応じて職員会議で報告しているが、職員の深い理解までには至っていない。6月の職員会議では、事務職員から収支の状況を職員に説明している。毎年の監事監査や、所管市の指導監査で指摘事項があれば、速やかに対応するようにしている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
<input type="checkbox"/> 子どもたちの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	

	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○

【判断した理由・特記事項等】

コロナ禍で中止が続いていた地域の盆踊りは、今年は実施でき、子どもたちが参加している。子どもたちの健康増進や社会体験を広げるため、お出かけ（散歩など）を積極的に行っている。お出かけの際は、地域の方と自然に触れ合い、交流を深めるようにしている。コロナ禍では、お出かけも自粛していたが、現在は少しずつ機会を増やすようにしている。地域の夏祭りでは、お神輿が事業所を訪れている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

ボランティアの受け入れ担当は特に決めていないが、施設長が主任が受け入れを行っている。コロナ禍により、散髪ボランティア以外の受け入れは行っていない。職員からの申し出により、養育支援担当による、子どもとのボランティア外出は継続しており、子どもたちの楽しみや、よい社会体験の機会となっている。コロナ禍前は、地域の環境整備などに関わっている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がいない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【判断した理由・特記事項等】

児童相談所とは定期的に連絡会を開催する他、適宜情報を共有して連携を図っている。市の子育て支援課や健康福祉センター、嘱託医、幼稚園、消防署、地元の行政センターなど、多くの機関と連携している。退所した子どものアフターケアとして、アルバムを届けたりして家庭や施設を訪問して、家庭や施設での生活の安定が図れるように配慮している。保護者から、定期的に電話が入ることもある。施設の機能として、ショートステイ事業を実施している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【判断した理由・特記事項等】

乳児院の子育て機能を地域の子育て支援に還元することを目的に、月2回、「そらまめひろば」を開催している。「そらまめひろば」は、市の社会福祉協議会の協力を得て、就園前の親子と一緒に遊び、子育ての悩みを話し合う場となっている。児童養護施設と合同で行う「あしたば祭」は、後援会の協力を得て、10月久し振りに開催している。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

「そらまめひろば」を地域貢献の場として、乳児院の専門性を地域に還元する取り組みを行っている。所属のない乳幼児を持つ親子への子育て支援を行っている。「そらまめひろば」はそれなりに反響があり、地域の子育て支援のニーズがあるため、施設の多機能化を目指して、今後も取り組みを進めていきたいと考えている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施
1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	

【判断した理由・特記事項等】

法人の理念や全国乳児福祉協議会が示す倫理綱領、乳児院養育指針を基本にして取り組んでいる。法人全体で毎年人権研修を実施して、全体の意識の統一を図っている。職員は統一した養育・支援を理解して子どもに対応している。職員は毎年、意向申告時に施設長と面談して振り返りを行っている。また、外部研修に職員が参加して報告書を提出し、職員間で内容を共有している。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	

【判断した理由・特記事項等】

保護者には、施設説明の際にプライバシーの保護を基本にしていることを説明している。一時保護で入所する場合は、特にプライバシーの保護に留意している。職員には、個人の携帯での子どもの撮影を禁止している。保護者宛のおたよりの写真についても、個人が特定されないように配慮している。職員全員に、守秘義務の徹底を周知している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

保護者の初回来院時には、施設の説明と子どもへの対応、面会の方法などを丁寧に説明している。感染症が広がると、対応が変わるため、特に面会については詳しく説明している。保護者には資料を配布するとともに、施設内の決まり事や相談方法、苦情対応窓口などを説明している。見学希望者にも、丁寧に対応している。

②	31 養育・支援の開始・過程において保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、保護者等の自己決定を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【判断した理由・特記事項等】

児童相談所からの措置が基本のため、子どもの受け入れ後に、保護者への説明を丁寧に行っている。毎月、保護者に「おたより」を送付し、面会が難しい保護者には、養育担当が子どもの近況をコメントし、子どもの写真も一緒に送っている。支援方針や方向性は、児童相談所と連携、調整して提示し、保護者に納得してもらおう中で支援を行っている。子どもの養育については、保護者の意向も取り入れながら進めている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【判断した理由・特記事項等】

家庭への引き取りの際は、退所後もいつでも相談ができることを保護者に伝えている。他施設への移行の際は、移行先の担当者と連携して、情報を共有している。また、1～2ヶ月かけて、次の施設への移行準備を行っている。家庭に復帰した子どもは、子どものアルバムを届けながら家庭を訪問し、保護者の様子を確認している。保護者に無理な面が見られた時は、ショートステイの利用などを勧めている。子どもの診療情報提供書を保護者に渡し、医療面の継続を図っている。退所後も施設内の秋祭り行事などを案内して、交流を図っている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	(乳児院) <input type="checkbox"/> 子どもとの日々の関わりのなかで、子どもの満足を把握するように努めている。	○
	(乳児院) <input type="checkbox"/> 職員等が、保護者等とのコミュニケーションを可能な範囲で図り、定期的に保護者等の満足を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した子どもの満足を集約する担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

養育日誌を毎日記録し、職員間で内容を共有している。前日の子どもの様子は、引き継ぎ表で確認している。また、養育担当がカリキュラム表を作成し、職員全員で共有している。月1回のクラス会議で、子どもの気になるところなどを話し合い、今後の対応を検討している。子どもの意向を汲み取る難しさはあるが、意識を持ちながら取り組んでいる。保護者の面会時には、言葉かけを行いながら、保護者の意向や希望を確認している。

(4) 保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【判断した理由・特記事項等】

法人全体で苦情解決の仕組みや体制を整備している。苦情解決責任者や苦情受付担当者、第三者委員を置き、保護者が来院時に確認できるよう、玄関入口に苦情解決のポスターを掲示している。保護者には、入所時や面会時にも説明しているが、ここ何年間、苦情としてあがった事案はない。

②	35 保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 保護者等が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

保護者から、急な面会や外出、外泊の希望を受けた時は、まずは児童相談所の担当者に相談してほしいことを伝えている。保護者の面会は個室にて対応し、面会時間の延長など、保護者の希望には、できるだけ対応するようにしている。保護者が焦らず余裕をもって、子どもと過ごせるよう配慮している。保護者から相談や意見を聞き、内容によっては児童相談所の確認が必要なことを説明している。

③	36 保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、保護者等が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、保護者等の意見を積極的に把握する取組を行っている。	○

	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

面会時には、保護者の質問や希望を確認するようにしている。また、意見箱も設置している。面会時や電話などで受けた保護者の意見や希望は、すべて記録し、その後の対応を保護者に返している。また、保護者からの子どもへのプレゼントなどは、子どもの名前を記入し、個人のものとして丁寧に扱っている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

リスクマネジメント委員会を置き、事故やヒヤリハットの事例を収集、整理してまとめ、再発防止につなげている。また、毎月、リスクマネジメント委員会がまとめたヒヤリハット事例の報告書を職員全員に回覧して、内容を周知している。朝の引き継ぎの際には、子どもたちの前日の様子や状況を報告し、子どもたちが安心、安全に生活できるよう取り組んでいる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	

【判断した理由・特記事項等】

看護師の意見も含め、感染症対策の具体的な方策を検討して対応している。コロナ禍では、行政の方針変更や状況に応じた対応が求められ、設備上の限界もある中、柔軟に対応している。毎月、嘱託医の往診があり、子どもたちの健康管理を行っている。各部屋に加湿器を設置し、毎日、午睡後に検温チェックし、子どもの様子を日々確認して、異常の早期発見に努めている。子どもたちが使用している玩具類は、常に清潔にして、感染予防対策を徹底している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	

<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

毎月、防災委員会を開催し、夜間想定訓練や津波訓練などの防災計画を作成している。また、防災マニュアルを作成し、避難訓練後はアンケートを実施し、内容の見直しを行っている。クラス責任者がそれぞれクラス人数確認表と備蓄室のカギを首に下げ、事務職は母子手帳を持って出る訓練を行っている。訓練時は、子どもはヘルメットをかぶり、靴を履くなど、安全対策を心がけている。外倉庫に備蓄品を保管し、非常食は年2回、栄養士が賞味期限を確認している。非常時連絡網は全職員に周知している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

【判断した理由・特記事項等】

基本的な内容を事業概要に記載し、全国乳児福祉協議会の倫理綱領や乳児院養育指針に沿って、子どもたちを養育、支援している。課題や疑義が生じた場合には、複数の職員で振り返りを行っている。職員は毎朝の引き継ぎで、子どもに対する取り決めや日課の手順などを確認し、統一した養育・支援を行っている。ラインワークスにより、職員は情報を共有している。

② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

日々の養育・支援で、職員から課題があがった場合は、その都度、職員間で内容を検討し、見直しを行っている。また、保護者からの意見は少ないが、意見があれば反映するよう検討している。事業計画は毎年、職員の意見を集約して作成しているが、養育・支援の標準的な実施方法に関しては、課題や疑義があった場合に、検証や見直しを行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。	
① 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	
<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	
<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	

	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

こどもの自立支援計画は、児童相談所の担当者（児童福祉司、児童心理司）と、施設長及び関係職員が協議して作成している。困難ケースについては、適宜、適切な養育・支援のあり方を検討、協議している。新たに入所した子どもは、3ヶ月後を目安に、児童相談所や施設長、担当者、家庭支援専門相談員などで、自立支援計画を見直している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、保護者等の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【判断した理由・特記事項等】

自立支援計画は、半年に1回見直しを行う他、必要に応じて、随時見直しを行っている。変更した内容は関係職員に回覧して周知している。また、児童相談所や保護者との話し合いの中で、保護者の意向を汲み取り、計画に反映している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

毎日の個別の養育・支援記録や看護記録、保護者に関する記録などは、書面とパソコンに記録し、必要に応じて、閲覧できるようにして職員間で共有している。食事については養育委員会で話し合い、記録に残している。子どもの養育・支援に関する記録は、健康面を含めて詳細に残すようにしている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	

<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	
<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。	

【判断した理由・特記事項等】

子どもたちの記録は、永久保存のため、取り扱いに注意して管理、保管している。また、個人情報の取扱いについては、職員の入職時に、退職後も守秘義務があることを説明している。施設内の文書類は重要な文書であること、特に子どもたちの養育・支援に関するものは、個人情報の保護を徹底することを、職員は入職時からの基本的な事項として受け止めている。外部に提供する際には、施設長の許可（決裁）を得て行っている。

内容評価基準（22項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	
<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

権利擁護についての研修は、新任研修の時に行っている。全国乳児福祉協議会の倫理綱領や養育指針を職員に配布し、意識の向上に努めている。人権委員会が中心となり、外部から講師を招いて人権の研修を行っている。事前準備、研修後のまとめなどで、全職員で内容を共有している。日常の養育の中では、クラス会議で、寝かせるときのトントンが強いのではないか、声のかけ方をもう少し優しくなど、具体的な関わりを通して、考える機会を設けている。

(2) 被措置児童等虐待の防止等

① A2 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりについて、具体的な例を示し職員に徹底している。	○
<input type="checkbox"/> 会議等で取り上げる等により、不適切なかかわりが行われていないことを確認している。	
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

全国から報告される不適切な関わりで起きる、子どもの事故の報告やニュースの内容を印刷し、職員全員が読めるよう「引継ぎ板」に挟んで周知している。ヒヤリハット報告の中で、保育士がドアを慌てて閉めた時に子どもの手を挟んだなど、事故が何故起こったか、改善策はどうだったかを会議の中で検討して、全員が周知をして養育にあたっている。建物の構造上死角が多いため、職員は見渡せる場所に位置するなどの工夫を行いながら支援にあたっている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
① A3 子どものころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 乳幼児に対する受容的・応答性の高いかかわりを心がけている。	○

<input type="checkbox"/>	子どもと養育者の信頼関係が築かれ、子どもが不安になった時など、いつでも応じられるように養育者が側にいるよう配慮されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□どの乳幼児も保護者等、あるいは担当養育者、里親等、特定のおとなと個別のかかわりを持つことができる体制が整備されている。	
<input type="checkbox"/>	□特別な配慮が必要な場合を除いては、基本的に入所から退所まで一貫した「担当養育制」をとっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□担当養育者と個別のかかわりを持つことができる時間を確保している。	
<input type="checkbox"/>	□語りかけや「だっこ」「おんぶ」などの身体のかれあいを通して心の安定を図り、心地よい状態を共有できるよう努めている。	
<input type="checkbox"/>	□被虐待経験のある乳幼児等特別な配慮が必要な乳幼児に対しては、個々の状態に応じた関係づくりを行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

愛着関係づくりが重要と、全職員は意識している。担当制をとり愛着関係ができるよう工夫している。担当の保育士が来ると、保育士の名前を呼び飛びついてきて、抱っこをしてもらうなど子どもが寄ってくる。保育士は赤ちゃんをおんぶしたり、抱っこしたり、スキンシップを取りながら対応している。保育士に何か訴えてくると優しく応答し、良かったねと手をたたきながらほめたりと、子どもにしっかりと向き合った養育をしている。寄り添った支援をしているが、人員が充分ではないため、保育士はもっと一対一のゆっくりした関わりの時間が欲しいと考えている。

②	A4 子どもの生活体験に配慮し、子どもの発達を支援する環境を整えている。	b
<input type="checkbox"/>	□日々の生活リズムは発達や子どもの気持ちに沿いながら一人ひとりにあった形で進められている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□入所までの生活環境や身体的成長の差等から生じる子ども一人ひとりの違いを十分に把握し、尊重している。	
<input type="checkbox"/>	□一人ひとりの子どもの欲求や要求に対し、抱いたり声をかけるなど、タイミング良く気持ちを受け止め対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子どもの個々の発達や状態に応じた適切な言葉を用い、穏やかに言葉かけをしている。	
<input type="checkbox"/>	□安定した環境の中、おもいおもいに遊ぶことができる安全で使いやすい遊具などがあり、自由に遊びに取り組めるよう配慮されている。	
<input type="checkbox"/>	□他児と区別された「自分のもの」といえる玩具、食器、衣類、戸棚などの個別化が図られている。	
<input type="checkbox"/>	□自然と触れ合える外遊びが養育者との十分なやりとりを交え提供されている。	

【判断した理由・特記事項等】

児童記録表や経過相談歴などの入所時の書類から、また、児童相談所のケースワーカーからの説明などで、子どもがどのような経緯で入所してきたかを把握して、支援にあたっている。一人ひとりの子どもの生活リズムを確認し、その子どもにあった養育をしている。ハイハイをしている子どもがいる時は、走り回る子どもと部屋を分けて遊ぶなどの配慮をしたり、玩具係の担当が興味を持って遊べる玩具を出している。個人所有のおもちゃは自分の引き出しに入れ、自由に出して遊んでいる。ペランダが広く、チョークでのお絵かきや、拾ってきたどんぐりで遊ぶなど、発達に即した環境を整えている。

(2) 食生活

①	A5 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	□授乳は、自律授乳を基本としつつ、個々のリズムや体調に合わせて量や時間を工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□授乳時は、乳幼児を抱いて、目を合わせ、やさしく言葉をかけ、ゆったりとした気持ちで飲めるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□授乳後は、吐乳・溢乳等を防ぐために排気を十分に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□一人飲みをさせていない。	
<input type="checkbox"/>	□生体リズムの乱れなどで自律授乳や自発的意思の授乳が難しい乳幼児には、その子の状態に応じた授乳を工夫している。	

【判断した理由・特記事項等】

生後1ヶ月のミルクだけの子ども、離乳食とミルクの子どもなどさまざまであるが、しっかりと抱っこして授乳をしている。授乳をしていても、他の子どもにも関わることがあり、人手が欲しいところである。ミルクを何時に、何CC飲んだか、排尿、排便はいつあったかなどその子どもの1日の生活が一目でわかるよう「生活記録」にすべて記録し、全職員が把握できるようにしている。離乳食を食べた後のミルクは、飲めるだけ飲んで、ミルクの後はしばらく抱っこをして対応している。

②	A6 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 在胎期間も含め、入所に至るまでの経過や発育、発達状況を踏まえ、一人ひとりに合わせた食の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 個々の状態に合わせて離乳を開始し、様々な食べ物や味に慣れさせている。	○
	<input type="checkbox"/> 食事をいやがったり遊びだしてしまう場合にも、時間をかけてゆったりとした気持ちで与えている。	
	<input type="checkbox"/> 噛む力を養うために、食品の種類や調理方法を工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 栄養士や調理員等は養育者とともに、咀嚼や嚥下の状況を確認し発育状況や体調を考慮しながら離乳食を進めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

生後5ヶ月頃になると、栄養士と離乳食の相談をして、初期の離乳食を一口から試してみて、大丈夫であれば種類、量を増やし、段階を踏んで行っている。離乳食が始まってもミルクは飲みただけ飲んで、離乳食はA（初期）、B（中期）、C（後期）、D（完了食）の段階で提供している。現在はB段階とD段階の子どもがいる。1歳くらいから、自分で食べる練習として、スティック状の野菜などを用意して、ご飯をスプーンにのせてあげ、自分で持つて食べることで、器に少し盛り、自分ですくって食べることなど段階を踏んでいる。子どもの様子に合わせて、自分で食べられるよう養育している。

③	A7 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 食事場所は清潔に保たれ、明るく楽しい雰囲気でき食事ができるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが食べやすいように、身体に合わせてテーブルと椅子の高さを適切に調整している。	○
	<input type="checkbox"/> 乳幼児が自分で食べようとする意欲を育てられるように、手に持って食べやすいものを用意したり、食器やスプーンなどに触れられるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食前の手洗い、食前食後のあいさつ、食後の歯磨きなどが定着するよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育者や他児と一緒に食事を楽しんでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 食事の食べ方や量にばらつきがあっても全部食べることにこだわらず、おいしく楽しく食べられるように、子どもと目線を合わせ、様子をみながら言葉をかけるなど雰囲気づくりに気を配っている。	
	<input type="checkbox"/> 日々の食生活を通じて食べたいものや好きなものが増える工夫がされている。	
	<input type="checkbox"/> お腹がすくリズムが持てるよう、朝食・昼食・夕食の間隔は適正になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 栄養士、調理員等が、食事の様子をみたり、介助するなか、一人ひとりの発育状況や体調を考慮した調理を工夫している。	

【判断した理由・特記事項等】

完食すると食器の底のペンギンが見えたり、かわいいキャラクター付きのスプーンを使用したり、子どもたちが喜ぶような食器を使用している。七夕にはお星さまの手作りゼリー、クリスマスにはかわいいケーキなど、行事食を手作りして喜んでもらっている。また、誕生会にはその子どもが好きな物を作っている。ワンプレートにきれいに盛った食事を、子どもたちはとても楽しみにしている。食事は全員一斉ではなく、一人ひとりにゆったりと関われるよう、時間をずらすなどの工夫を行っている。コロナ禍では、保育士と一緒に食べる機会が減少している。

④	A8 栄養管理に十分な注意を払っている。	a
	<input type="checkbox"/> 十分なカロリーと栄養のバランスよい献立が、栄養士により準備されている。	○

<input type="checkbox"/> 栄養だけではなく季節感を取り入れた食事が提供されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 乳幼児の体調、疾病、アレルギー等に個別に対応した食事を提供している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 乳幼児の嗜好や栄養摂取量の把握に努め、献立に反映している。	
<input type="checkbox"/> さまざまな「食育」への取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 発達に応じて、食事の準備や食事作りを見たり、かかわる機会を持ち、食べることに興味関心を持つことができるよう工夫している。	

【判断した理由・特記事項等】

朝食、10時のおやつ、昼食、3時のおやつ、夕食の5回、バランスのよい献立を立て、それぞれのカロリーを献立表に記入して、1日の摂取カロリーが分かるようにしている。食育にも力を入れており、生のトウモロコシやタマネギに触って皮をむくなど、野菜の感触を体感して、調理されたものを食べている。夏には、プランターでトマトやピーマンを栽培し、収穫して食べている。子どもたちは、ホットケーキやフルーチェ、かき氷などを一緒に作って楽しんでいる。

(3) 日常生活等の支援

①	A9 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 衣類は吸湿性・通気性に富み、清潔を保ち、肌に刺激の少ない材質を使用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の体型を考慮し、活動を阻害せず、着脱が容易なものを使用している。	
	<input type="checkbox"/> 気候調節へ配慮し、寒暖の状態に適した枚数と厚さにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 寝ている生活が主なときは前開きのものを、動きが活発になったら活動的で腹部や背中に出ないものを選ぶなど、生活実態に適し、個々の発達に応じた衣類管理を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣類は個別化し、個人別に収納している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

入所時には、衣類が不足している子どもが多いため、共用の衣類でサイズの合うものを選んで着てもらっている。担当の職員が決まると、その子どもに合ったものや好みのものを購入して揃えている。子どもの肌に刺激のない、優しい素材のものを選んでいく。衣服の保管は、個人の名前が書いてあるタンスに入れている。泥んこ遊びや絵の具遊びの時などは、汚れてもいい服を着て思い切り遊んでいる。洗濯はパートの職員が担当し、保育士は衣類の整理などを行っている。

②	A10 乳幼児が快適に十分な睡眠をとれるよう取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 室内の環境として、温・湿度、換気、明るさ、静かさ、音楽などを快適に保っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 寝具の環境として、肌に触れる素材は綿素材を用い、広さ、形状、硬さなどを快適に保っている。	
	<input type="checkbox"/> 睡眠時の状況を観察している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 快適に十分な睡眠をとれるよう、個々の乳幼児の発達・心理に配慮した職員の対応など具体的な独自の取組を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

寝室と活動部屋は分け、夜間や午睡の際は、畳の部屋に布団を敷いて就寝している。室内は温度管理がされ、子どもたちが安心して眠れる状態にしている。寝付くまでは保育士が絵本を読んだり、トントンしたりして入眠を促している。夜間はSIDS対策として、15分おきに呼吸などの確認をして記録に残している。寝る時間になると歯磨きのできる子どもは歯磨きをし、パジャマに着替えておやすみなさいをしている。夜間寝られず泣き出す子どももいる。保育士は抱っこをしたりして、気持ちを落ち着かせ安心させて寝かせている。

③	A11 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴を毎日している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	浴室・沐浴槽などの設備やタオル・バスタオルなどの備品は常に清潔が保たれている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	乳幼児の年齢、発達、発育等、個々の状況に応じた入浴方法がとられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	安心して、心地よく、楽しい入浴・沐浴になるような言葉掛けなどの配慮がなされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	入浴・沐浴に際し、おもちゃ等を用意し、心地よい体験になるよう工夫している。	

【判断した理由・特記事項等】

木浴室や浴室があり、0歳の赤ちゃんは午前の温かいときに沐浴を済ませ、幼児は午後3時半ころから順番に入浴している。コロナ禍前は保育士も一緒に入っていたが、コロナ禍以降は、保育士は外からの介助方法をとっている。子どもたちはお風呂が大好きで、お風呂の中でバチャバチャと遊んでいる。タオルやバスタオル類、着替えた衣服は毎日洗濯して清潔な状態を保っている。

④	A12 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a
<input type="checkbox"/>	おむつ交換のときに、言葉をかけながら身体をマッサージなどして、おむつ交換が心地よいものであることを伝えるように心がけている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	発達段階に応じて、排泄への興味が持てるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	発達段階に応じて、おむつが濡れていないときは、便座に誘導するなどして自分から便座に座る意欲を持てるように配慮している。	
<input type="checkbox"/>	発達段階に応じて、個々の幼児のリズムや気持ちに合わせて誘導を行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

おむつ交換は、他の子どもからも目を離せないため、部屋にマットを敷いて声掛けをしながら行っている。3歳くらいには、紙パンツが濡れなくなると布パンツに移行している。遊びに夢中で失敗をする子ども、トイレに行くのが嫌という子どもには、無理強いしたり叱責することなく、安心した声掛けを行いながら排泄をしている。トイレは子どもたちが喜ぶアンパンマンのシールを貼ったりして、興味を持って楽しんでトイレに行けるようにしている。

⑤	A13 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	a
<input type="checkbox"/>	玩具の色・形や音色などを選ぶように工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	戸外に出かけ、外界への興味を広げられるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	模倣遊びや職員や他の乳幼児とのふれあい遊びを通して、情緒の育成を図り、人との豊かなかわりができるように配慮している。	
<input type="checkbox"/>	養育者や他の子どもと楽しく遊ぶことができるよう心がけている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの五感を育てる遊びが提供できるよう工夫している。	
<input type="checkbox"/>	月齢により、収納場所を設け、玩具の個別化をし、自分の物という喜びや認識ができるよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの手の届く所に玩具の収納場所を設け、年齢によっては自由に出し入れして遊べるようにしている。	

【判断した理由・特記事項等】

玩具係の職員を中心に、月齢に適した玩具などを随時補充している。壊れた玩具は、危険防止のため処分している。子どもが気に入っているおもちゃは、修理して危険のないように使用している。ぬいぐるみにこだわったり、カバンにこだわったりする子どもがおり、安全に使用できるよう配慮している。個人のおもちゃは、自分の引き出しの中に入れ、園のおもちゃと別に保管している。玩具類は毎日消毒している。子どもたちは外遊び用の滑り台などで保育士と一緒に遊び、天気の良い日は散歩車に乗って近くの公園に行き、ドングリを拾ったり落ち葉を拾ったりして自然を楽しんでいる。

(4) 健康

①	A14 一人ひとりの乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/>	健康観察記録を作成し、日々の健康状態の変化が一目で把握できるように工夫している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	□日常的に医療機関等と適切に連携するよう努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□嘱託医による定期健康診断では、身体発育の状態や精神・運動発達・情緒的問題等について総合的な診察を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□乳幼児の条件や集団の構成に応じて、適宜予防接種を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□異常がある場合には、医療機関を受診するなど適切に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ミルクや離乳食を開始した当初は、発疹などアレルギー症状の出現に注意し、異常所見が見られた場合には速やかに医師に相談し対応策を講じている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

健康管理マニュアルを整備している。日々の子どもの状態や顔色、鼻水、咳、喘鳴などの視診を行い、検温は6時と13時に行い、生活記録に記載している。看護師が養育の現場に入り、体調変化時の受診などに適切に対応している。月1回、小児科の嘱託医の往診があり、子どもの健康を把握している。てんかんがある子どもがおり、定期的に受診して、内服薬の処方を受けている。薬は看護師が保管し、服用は保育士が食後に対応している。

②	A15 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	a
<input type="checkbox"/>	□病・虚弱児等個々の健康状態の変化が、常に把握できるように工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□服薬管理表等により、適切な服薬管理を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□専門医や主治医の協力のもと、乳幼児の健康状態に応じた療育計画や発達支援計画などを含む支援のプログラム等を作成して、乳幼児の適切な発達を支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□専門医や主治医による定例的な診断を受けている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□異常所見がみられた場合には、速やかに専門医や主治医に相談できる連絡体制をとっている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

日常生活では皆、元気に遊び、てんかんの子どもが一人いるだけである。その他、慢性的な疾患を持っている子どもははいない。子どもたちの体調の変化は看護師が対応し、常に状態を把握するようにしている。また、医療機関とも連携し、何かあった時は受け入れてくれる体制を整えている。

(5) 心理的ケア

①	A16 乳幼児と保護者等に必要な心理的支援を行っている。	b
<input type="checkbox"/>	□心理的な支援を必要とする乳幼児について、保護者等への支援も視野に入れた自立支援計画や養育計画に基づき、心理支援内容が明示されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□心理支援内容には、個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的支援が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□心理職をおき、乳幼児にも保護者等にも心理的な援助を行える体制が整っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□必要に応じて外部の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□心理的なケアが必要な乳幼児や保護者等への対応に関する職員研修やコンサルテーションが行われている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

現在、心理士は配置していない。募集はしているが、希望者もなく、採用に至っていない状況である。

(6) 親子関係の再構築支援等

①	A17 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
<input type="checkbox"/>	□家庭支援専門相談員が中心となって施設と家族との信頼関係を構築するよう努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□施設が家族と共に子どもの成長を喜び合う雰囲気を大切にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□面会時に必要に応じて保護者等の養育スキルの向上を支援している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 保護者等の相談に積極的に対応するための保護者等面接の設定等、専門的なカウンセリング機能の充実に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員は、家族に寄り添い、保護者等の言葉を傾聴する役割を担っている。	
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の協働養育者として、日常生活の様子を写真やお手紙に書いて家族に伝えている。	○

【判断した理由・特記事項等】

現在は、家庭支援専門相談員は配置していない。保護者への対応などは、施設長や主任、看護師などが内容に応じて行っている。養育経験のない保護者には、施設内で授乳の仕方、沐浴の仕方を保育士と一緒にいき、覚えてもらいながらスキルを上げてもらっている。面会時に保護者から、子どもがむずがったときはどうしたらよいかなどの質問があり、その都度丁寧に説明し、少しでも子どもに関わってもらえるよう支援している。

②	A18 親子関係再構築等のため、家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援に関する具体的なプログラムや配慮事項が明記されている。	
	<input type="checkbox"/> 入所理由の理解とケアの方向性についてアセスメントしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと家族との関係調整については、定例的かつ必要に応じて児童相談所等と協議を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、施設宿泊、一時帰宅などを計画的に設定し、乳幼児と保護者等との関係性が好転し、保護者等の養育意欲が向上するよう支えている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅後の乳幼児の様子を注意深く観察し、家族からの不適切なかわりがあった場合には、その発見ができるよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 課題の内容によっては適切な機関につなげられるよう、地域の精神、心理相談のできる機関を十分に把握し、連携をとっている。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所を中心とした他機関との協働により、虐待の未然防止と家族機能の再生、親子関係の再構築に向けてのサービス資源の提供などのソーシャルワークを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

昨年は14人の子どもが退所している。家庭への引き取り11人、養育縁組1人、その他などがあつた。児童相談所との連携のもと、親子関係の再構築は重要課題として取り組んでいる。家庭引き取りは、児童相談所のケースワーカーが、家庭環境や家族の受け入れ態勢などを確認し、面会や外出、園内宿泊での養育体験、一時帰宅での子どもの様子観察、外泊と、段階を追って家庭引き取りを目指している。保護者の精神疾患などで面会のない子どもや、家庭引き取りのできない子どもは、担当職員が一对一の時間を多く持ち、子どもの好きなアミューズメントパークに出かけたり、好きな物を食べに行ったりしている。

(7) 養育・支援の継続性とアフターケア

①	A19 退所後、子どもが安定した生活を送ることができるよう取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども退所先に応じて、退所後の生活に向けて必要な支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後、施設に相談できる窓口(担当者)がある等、必要に応じた支援をするための体制を整えている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所や関係機関、民間団体等と連携を図りながら退所後の支援を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

家庭引き取り後も、いつでも相談できる体制があることを保護者に伝えている。実際に、園にいたころはどうだったかなどの問い合わせは多い。他施設入所での退所の場合は、施設の見学や慣らしとしてのお泊りなどを経て、入所がスムーズにできるよう支援している。施設とは引き継ぎ書により、子どもの状況を伝えている。その後も状態はどうかなど施設と連携している。

(8) 継続的な里親支援の体制整備

①	A20 継続的な里親支援の体制を整備している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育単位の小規模化による家庭的養護の推進や、早期に家庭復帰が見込めない乳幼児には個々の状況に応じて里親委託を推進している。	
	<input type="checkbox"/> 里親委託の推進に当たり、里親支援機能の充実などの中・長期計画を明確にしている。	

	<input type="checkbox"/> 里親支援専門相談員を配置するなど、里親委託の推進、地域の里親及びファミリーホームに対する継続的な支援の体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 里親委託に当たり、委託に至るまでに里親・児童相談所等と丁寧な連携を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 里親を希望する地域の人を対象に相談を行うなど、支援の取り組みを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談支援のほか研修、レスパイトを行うなど、里親の状況に応じた取り組みを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

家庭復帰が望めない子どもについては、里親制度を活用している。里親委託は国や市の方針もあり、協力体制を整えている。里親支援専門相談員を置き、市内の里親制度推進の役割と里親への支援を担っている。里親希望者に園に来てもらい、面会や外出、外泊などを経て、里親のもとに引き取られた子どももいる。退所後も里親支援専門相談員が里親と連絡を取り合い、成長を確認している。若い夫婦は赤ちゃんを希望し、子育ての終わった年配の夫婦は活発に走り回る子どもは体力的に厳しいなど、難しい面もある。

(9) 一時保護委託への対応

①	A21 一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携して、初期の情報共有とアセスメントに努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 一時保護を受ける際のマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 入所時の健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症やアレルギー等の観察と配慮に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な職種が連携・協同し、一時保護後の養育環境(家庭復帰・里親、児童福祉施設等)の確保に向けてアセスメントに基づく支援を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

児童相談所の一時的保護所での受け入れができない場合は、園で受け入れを行っている。一時受け入れの場合は、コロナなどの感染対策として、健康診断書の提出をお願いしている。1歳からここで生活をして、家庭引き取りができなく、6歳になる子どもを一時保護として受け入れている。長年、園で生活していたので本人は混乱もなく学校に通っている。

②	A22 緊急一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 児童相談所から緊急一時保護を受け入れている。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急一時保護を受ける際のマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 観察室での「観察期間」の実施を順守して対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 入所時に、必要に応じて医療機関との連携をはかる等の対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症や潜伏期間等への対応が十分にできている。	
	<input type="checkbox"/> 受け入れ後の多職種による連携したアセスメントが実施されている。	

【判断した理由・特記事項等】

児童相談所での一時保護ができなく、緊急の場合は、園内に余裕があれば依頼を受け入れている。受け入れにあたっては、健康診断書を提出してもらうことを条件としている。